



### 砂利屋と旅館業の兼業から

守谷家は、愛媛県新居浜市に隣接する西条市の出です。古くから来道し、遠別町に落ち着いた祖父（初代／守谷 栄氏）は、農業、漁業に従事し、やがて遠別川で川砂利を採取し、用途に応じて加工を施し、運搬し販売するといった、いわゆる砂利屋さんの仕事を始めます。ご存知ないかも知れませんが、歴史を紐解けば、遠別は橋本木材



守谷建設はコンクリートのノウハウを持った職人の集団。海・山・川・道、あらゆる場所であらゆる形体に応える。

# 守谷 一彦さん

守谷建設 株式会社 代表取締役

技術者を育て、技術者に支えられる。コンクリート工事に培われた職人魂で、次代の土木ニーズと課題に伝えていきたい。



給料はさておいても、休日などの労務、福利厚生面でも人を大切にしている。全社員が毎春、百数十日間の休日予定を立て、それが会社の年間計画になるという。

趣味は旅行。「家に長く旅館を任せていたものですから、その感謝の気持ちも込めて」と。家族を思う気持ちで、従業員や取引先、仲間たちを気遣う守谷社長。



人と技術を大切に守る守谷です。



天塩川改修工事の内（雄信内 左岸 築堤工事）比較的最近行われた、天塩川の改修工事にまつわる築堤工事。荒めの吸排水性に優れた粗粒の道が、創業者が建設業界へ参入する前に生業としていた「川砂利」を彷彿させる。守谷建設を象徴する写真に見える。

ら「橋の守谷」と呼ばれるようになり、国道232号はじめ、この辺り一帯の橋は、すべて守谷が架けていった、と言っても過言ではないでしょう。

### 下請けを脱皮し、コンクリート工事に強い建設会社へ

昭和24年に発足となった留萌土建協会が、留萌建設協会へ改称したその年、昭和28年に当社も協会の仲間入りを果たし、また35年には法人化、現在の守谷建設の母体がつくられます。橋から始まったコンクリートを用いた土木工事

の領域は、見る見るうちに拡大し、自社やJ-V（企業共同体）で道路や河川・沿岸の護岸、砂防ダムなどの工事も請け負うようになりました。さらに建築分野にも進出し、遠別町福祉センターを皮切りに老人ホーム、スポーツセンターなど町の公共建築を手掛け、地域振興に貢献する企業へと躍進します。創業者である祖父は温厚な性格だったと言われ、その一方モノづくりが好きで、重機などを設計し、特許を取得したものもあるのだそうです。常に創意工夫を重ね、受けた仕事が成果品になるまで、とことん追求する体質は、いまも昔も変わらぬ守谷建設の特徴となっています。現在でも鉄筋は外注しますが、コンクリート工事は型枠から最後まで全部自社で完結させています。そういう技術を持った職人が揃っているのです。

### 先代が育てた技術職人が二代目、三代目を支える

祖父の死去に伴い、昭和41年に代表取締役役に就任し、二代目とな

さんという全道一の木材屋さん、そして砂利屋さんで大いに潤った町で、それこそ花街もある食いだの楽の町だったので。美味しい店、宴会場も沢山ありました。そんな時代背景もあって、祖父は旅館も営みます。現在、私の家内が切り盛りしている「栄館」のことで、最初は本町3丁目（現在の4丁目に移転して約60年）にありまして、砂利業を廃業した後は、旅館の隣に附属するような形で、今日の私どもの前身となる「守谷組」を創業します。それが終戦後の昭和23年のことです。

### 大林組さんの下請けがキッカケとなり業界入り

おそらく、戦後の日本復興を使命とし、建設業にこの町と自分た

った父（守谷一美氏）は、遠別尋常高等小学校卒業後まもなく徴用され、東京大空襲を経験し、昭和23年（守谷組創業年）に遠別に帰郷します。すぐには入社せず、橋本木材さん、留萌土木現業所さんで運転手として活躍し、守谷建設の一員となったのは昭和31年になってからでした。ところがまさかその10年後に、跡を継ぐことになる。とは夢にも思わなかったでしょう。しかしながら、これも当社の特徴ですが、何よりも従業員（季節雇用者も含む）を大切にしている社風があり、何十年と勤め上げるプロフェッショナルが、次代を担う若き社長を丸となって支えてくれるのです。父が他界した平成9年に急きょ三代目となった私もまた、この道30年・40年の技術職人たちに育ててもらったも同然であります。ちなみに、父は竹を割ったような性格で、判断力にも優れ、何事においても決断の早い人でした。

### 地域的な今後の課題は「農業」と「海」の土木工事

一方、私の性格は、周りの人に言わせれば「嘘をつけない裏表のない人間」らしいです。昭和58年に当社に入社し、父の時代ともども、農業土木（農地開発・改良、農村整備など）と海岸線（護岸工事など）に全力を投じてきました。しかし近年になって困ったことが

ちの将来を展望したのでしよう。

私が伝え聞くところでは、ゼネコンの大林組さんの下請けをするようになったことが、この業界に入ったキッカケです。国道40号の天塩大橋（昭和26年施工、30年完成／留萌開発建設部所管）の下部工の工事でも祖父らが手掛けています。そんな大林さんとの出会いが



二代目 守谷 一美氏



創業者 初代 守谷 栄氏

旧社屋（遠別町本町3丁目）

起き始めています。それは農業土木の仕事がこの10年来ピタリと止まってしまったこと。そうすると、入札時に必須条件となる「実績」が消えてしまいます。これをどうにかすべく対策に追われているところ。さらに、ここ数年の集中豪雨を受け、問題が顕著化しているのが護岸の災害復旧工事です。港が大きくなるほど北側が浸食し、脆くなった所を直撃されます。原状回復では解決できない護岸の在り方も抜本的に見直す必要性があります。



現在の社屋

建設業よりも長い歴史のある

**【旅荘 栄館】**

天塩郡遠別町4丁目 ☎01632-7-2253

●部屋：和室11室完備 ●駐車場：約13台  
●収容人数：最大30名 ●料金：7,020円（1泊2食付）※冬期暖房費540円

## Company Profile

守谷建設 株式会社 天塩郡遠別町字北浜80番地10 ☎01632-7-2213 ☎01632-7-3124  
■建設業許可／北海道知事許可 第570013号 ■営業品目／総合建設業・土木工事全般  
■創業／昭和23年 ■設立／昭和35年法人成り  
■資本金／1,100万円 ■従業員／社員9名（ほか季節雇用者5名）

## Personal Profile

守谷 一彦さん  
昭和30年6月2日生まれ。遠別町出身。東海大四高校、東海大学工学部土木科卒業。  
昭和53年、小平町の隼西村組入社。5年間の修業を経て守谷建設(株)に。平成9年、代表取締役役に就任。